

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文社会科学部	3
2. 教育学部	5
3. 理工学部、理工学研究科	7
4. 農学部	10
5. 総合科学研究科	12
6. 教育学研究科	15
7. 獣医学研究科	17
8. 連合農学研究科	19

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
人文社会科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理工学部、理工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
農学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
総合科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
獣医学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
連合農学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 人文社会科学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4 )

**分析項目Ⅰ 研究活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 2. 教育学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 6 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 6 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 「学校气象台」の研究は、県内外の機関との連携した「科学教育・防災につながる気象教育の理解増進」に関する研究によって、児童・生徒等の気象への興味・関心、防災意識の高揚に寄与したとして、平成 30 年度文部科学大臣表彰（科学技術賞）を受賞した。

〔特色ある点〕

- 大型の外部資金を獲得した場合に教育活動や管理運営業務に係る負担を軽減し、優れた研究成果の創出に繋げるために、研究重点教員として研究に専念できる制度（岩手大学研究重点教員制度）を導入している。
- 「教員長期海外渡航支援経費」、「教員の海外渡航支援経費」、「海外共同研究招へい経費」を設け、合計平成 28 年度 15 件、平成 29 年度 12 件、平成 30 年度 7 件、令和元年度 10 件を経費支援した。  
支援の成果として、「教員長期海外渡航支援経費」については、平成 30 年度に採択された 2 名は新規の科研費採択など実績を出しており、「教員の海外渡航支援経費」の採択者は、採択されていない者と比較して科研費の採択率が高く、外部資金獲得に寄与している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1 件、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



### 3. 理工学部、理工学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 8 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 9 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学部・研究科における研究推進を担う組織として、ソフトパス理工学総合研究センター（SPERC）を設置し、ソフトパス理工学の理念の下、主として若手研究者の研究インキュベーションセンターや、学部内又は学部間融合化研究推進の拠点として活動している。平成 28 年度から令和元年度までの 4 年間に SPERC において発表された論文、獲得した外部資金等の研究成果は、それぞれ、論文数 145 編（第 2 期中期目標期間中 107 編）、外部資金 54 件（その内、科研費基盤研究（S）1 件、基盤研究（B）8 件など；第 2 期中期目標期間中基盤研究（A）1 件、基盤研究（B）4 件）、受賞 9 件、共同研究 39 件（第 2 期中期目標期間中 9 件）、特許 3 件となっており、極めてアクティブに活動している状況が確認できる。（業績番号 3, 11, 13, 14, 16, 24 など）
- 学部・研究科の高い研究レベルに基づき、内閣府戦略的イノベーション創造プログラムを始めとする大型又は国際的研究資金を獲得している。
  - ①大型研究プロジェクト採択（内閣府戦略的イノベーション創造プログラム SIP；業績番号 2）：獲得研究資金総額 157,494,680 円（平成 28 年度～平成 30 年度）→分子接合という画期的な技術により異種材料間の接合が可能となり、革新的技術として産業界からの関心も高い。
  - ②大型外部資金採択（科研費基盤研究（S）；業績番号 13）：獲得研究資金総額 105,310,000 円（令和元年度～令和 5 年度）→プラズマパルスの農業利用という融合的研究であり、業界からも多くの期待が寄せられており、マスコミ等でも多く取り上げられている。
  - ③科学研究費助成事業採択（国際共同研究加速基金；業績番号 16）：獲得研究資金額 11,100,000 円（平成 28 年度）
- 「教員長期海外渡航支援経費」については、平成 30 年度に採択された 2 名は新規の科研費採択など実績を出しており、「教員の海外渡航支援経費」の採択者は、採択されていない者と比較して科研費の採択率が高く、外部資金獲得に寄与している。また、「海外共同研究招へい経費」については、招へいした共同研究員とハイインパクト国際雑誌への論文投稿や、共同研究の今後の展開、国際交流の可能性や交流を通じて相互による留学生派遣の期待、および招へい

期間中における岩手大学学生への英語による指導やコミュニケーションを通じての岩手大学学生のトレーニングなど、採択者からその成果の報告が届いている。

- 東日本大震災・津波を経験し、その災害からの復興に取り組んだ大学として、組織として得た知識、経験、人脈等を広く地域社会、国際社会と共有するとともに、それらを形式知化、体系化することが責務であるとの強い認識のもと、学部・研究科の教員を中核スタッフとして、防災、危機管理に関する「国際防災・危機管理研究 岩手会議」を開催した。この会議を通じて、諸外国の研究者・専門家と今後の災害多発時代における防災教育や危機管理体制などに関する情報・意見交換を行うとともに、学術的交流を深めることを確認した。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

#### 4. 農学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 11 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 11 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 第3期中期目標期間のうち、平成28年度から令和元年度までの学会賞等授賞数は、次のとおりである。
  - ・学会奨励賞：国内5件、国外1件
  - ・学会賞：国内17件、国外1件
  - ・その他団体等からの受賞：国内28件、国外1件

〔特色ある点〕

- 利用が限られていた岩手県の天然資源の久慈産琥珀に、抗アレルギー、メラニン産生抑制、並びにコラーゲン産生促進活性を見出し、化粧品として実用化した。
- 低温応答性タンパク質の網羅的変動を明らかにした研究成果が国際的に評価され、海外共同研究（6か国）の実施と成果発表（国際雑誌7本）、書籍編集及び分担執筆依頼（4件）、招聘・基調講演（国際学会6回、海外大学など7回）を行った。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 5. 総合科学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 13 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 14 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 大型研究プロジェクト（内閣府戦略的イノベーション創造プログラム SIP）採択：獲得研究資金総額 157,495 千円（平成 28 年度～平成 30 年度）。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度に女性研究者の研究活動支援として、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議の連携機関との共同研究を実施する岩手大学の女性研究者 20 名（研究代表者 16 名、研究分担のみ 4 名）に研究費を支援した。その他、各連携機関が女性研究者の上位職登用のためのシステムを構築し、各連携機関すべてが上位職登用を進めたこと、各連携機関全体として女性研究者在職比率に係る目標を達成したことなど、北東北地域における研究環境のダイバーシティ実現に向けた取組が高く評価され、科学技術振興機構（JST）から最高位である S 評価の中間評価を得た。
- 総合科学研究科では、岩手県の地域基幹産業（1 次産業、2 次産業）の高度化に資する研究活動と、その成果の実用化を目指した学際的取り組みも行っている。具体的には、①高電圧・プラズマ技術を利用して、農産物の栽培促進（水耕栽培の養液処理、土壌殺菌処理、キノコの子実体形成促進）、②青果物の鮮度保持（エチレンの分解、空中浮遊菌の殺菌）、③地域漁業ニーズに応じた小型船舶の自律安定制御、④陸上養殖用水槽清掃ロボット、⑤食品加工業でのロボットシステムの実装、等に関する研究開発を実施している。これらの活動については、関連学協会から表彰されたり、マスコミ等で多数取り上げられている。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、4件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



## 6. 教育学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 16 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 16 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議の連携機関との共同研究を実施する岩手大学の女性研究者 20 名（研究代表者 16 名、研究分担のみ 4 名）に研究費を支援した。その他、各連携機関が女性研究者の上位職登用のためのシステムを構築し、各連携機関すべてが上位職登用を進めたこと、各連携機関全体として女性研究者在職比率に係る目標を達成したことなど、北東北地域における研究環境のダイバーシティ実現に向けた取組が高く評価され、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）から最高位である S 評価の中間評価を得た。

〔特色ある点〕

- 大型の外部資金を獲得した場合に教育活動や管理運営業務に係る負担を軽減し、優れた研究成果の創出に繋げるために、研究重点教員として研究に専念できる制度（岩手大学研究重点教員制度）を導入している。
- 「教員長期海外派遣支援経費」、「教員の海外渡航支援経費」、「海外共同研究招へい経費」を設け、合計平成 28 年度 15 件、平成 29 年度 12 件、平成 30 年度 7 件、令和元年度 10 件を経費支援した。  
支援の成果として、「教員長期海外渡航支援経費」については、平成 30 年度に採択された 2 名は新規の科研費採択など実績を出しており、「教員の海外渡航支援経費」の採択者は、採択されていない者と比較して科研費の採択率が高く、外部資金獲得に寄与している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 7. 獣医学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 18 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 18 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度に女性研究者の研究活動支援として、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議の連携機関との共同研究を実施する岩手大学の女性研究者 20 名（研究代表者 16 名、研究分担のみ 4 名）に研究費を支援した。その他、各連携機関が女性研究者の上位職登用のためのシステムを構築し、各連携機関すべてが上位職登用を進めたこと、各連携機関全体として女性研究者在職比率に係る目標を達成したことなど、北東北地域における研究環境のダイバーシティ実現に向けた取組が高く評価され、JST（科学技術振興機構）から最高位である S 評価の中間評価を得た。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 8. 連合農学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 20 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 20 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- これまで岩手大学で開催していた連合農学研究科に関わる国際シンポジウムを、平成 30 年度からは各構成 3 大学（弘前大学、山形大学、岩手大学）の国際戦略に沿う形で独自で開催できるよう、国際シンポジウムの開催要件（他の構成大学の学生も研究発表を可能とすること等）を定め、研究科長裁量経費で構成大学に海外研究員の招へい旅費等として 50 万円を補助することとした。国際シンポジウムへの構成大学を跨いだ参加を通じて、間接的に共同研究を生起、発展させる条件の醸成に努めている。
- 平成 30 年度に女性研究者の研究活動支援として、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議の連携機関との共同研究を実施する岩手大学の女性研究者 20 名（研究代表者 16 名、研究分担のみ 4 名）に研究費を支援した。その他、各連携機関が女性研究者の上位職登用のためのシステムを構築し、各連携機関すべてが上位職登用を進めたこと、各連携機関全体として女性研究者在職比率に係る目標を達成したことなど、北東北地域における研究環境のダイバーシティ実現に向けた取組が高く評価され、JST（科学技術振興機構）から最高位である S 評価の中間評価を得た。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、8 件、3 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。